令和３年度　江戸川区立西小岩小学校　学校関係者評価　最終評価用報告書

学校教育目標	学び　かがやけ　西小岩の子 考える子　　やさしい子　健康な子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	・どの子供も「学校が楽しい」と感じ、安心して学べる学校 ・主体的・対話的に学び、自他を尊重し合い、互いを大切にできる心豊かな子 ・温かさの中に厳しさも加味し、意欲と自覚・自律を促す、人間味あふれる教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞「主体的に考え、適切に表現する児童」～言葉に着目して考える「読み」の学習を通して～を研究主題として国語科における指導の推進を実践できた。コロナ禍の中でも、落ち着いた学級・学校経営を図ることができた。 ＜課題＞学力の向上、教員の授業力向上。 保護者の理解を得た特別支援教育の推進。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 ・「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	・ステップタイムの計画的推進と東京ベーシック・ドリルの実施 ・算数に特化した補習（2年生以上）	・算数が分かるようになったと回答80%以上 ・ベーシックドリル70%通過率、低学年80%、高学年70%	A	B	外部講師による補習を引き続き実施。C層児童の算数の力が付いてきた。一方ベーシックドリル70%通過率は、高学年が61%にとどまった。	B	来年度も、外部講師が補習をすることとなり、子供たちの理解が深まることは区の施策としてよいと思う。	特に高学年において、現学年以前の学習内容の理解が十分ではない児童の底上げに努める。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の充実 （読書科ノートの活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等） ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実	・読書タイムの活用と、読書月間の設定・・10月、2月 ・全校読書科ノートを活用した授業の実施・・2回以上	・全学年「江戸川区調べる学習コンクール」に応募 ・児童アンケートで進んで本を読んだり分からないことを調べたりすると回答90%以上	B	B	全児童が「江戸川区調べる学習コンクール」に応募。表彰を受けた児童が3名いた。進んで本を読んだり分からないことを調べたりする児童は80%はいるが、目標値を達成するため、さらなる読書の時間の工夫が必要。	B	コロナ禍のため実施できなかった地域・保護者による「読み聞かせボランティア」の募集や「子供に読ませたい本」等について、来年度はぜひ募ってみてもらいたい。	昼読書の工夫。学力向上委員会で検討し、ボランティアの力を活用したり、全校で取り組む活動を実施したりする。また、図書館の整備と読書科の計画の改善を図る。
	体力の向上	・体育の授業や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上	・体力テストの実施 ・元気アップタイムの充実	・児童アンケートで体育の授業で頑張れた、外遊びをしていると回答85%以上	B	A	体育の授業で頑張れた、外遊びをしている児童80%で目標を達成できなかったが、体力テストでは区内で1番であった	A	目標を示した取組を期待する。体力テストで表彰されたことは良かった。	人工芝の校庭を生かした取り組みを検討する。
	オリパラ教育の推進	・「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組、「学校2020レガシー」の設定やオリパラコーナーの充実	・オリパラ授業…2回以上 ・オリパラコーナーの更新…2回以上	・リアルタイムでオリパラの取組について更新を実施	B	B	コロナ禍で思うように取り組めなかったが、オリパラコーナーの更新、西小岩レガシーの授業はできた	B	今後もできれば続けていってほしい。	西小岩2020レガシープランの実践を今年度内にまとめ、今後に生かす。
	外国語教育の推進	・授業力の向上とALTの効果的な活用	・専科教員による系統的な指導	・児童アンケートで外国語・外国語活動が楽しいと回答80%以上	A	A	全学年、専科教員による一貫性のある外国語の授業を実施することができた。	A	外国語を専門に教えていただくことを本校の特色として行ってほしい。	外国語の授業を、できる限り校内で参観していく。
	健全育成に向けた取組の強化	・いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ・チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	・生活指導連絡会…毎週水曜日 ・心のアンケート…年3回 ・道徳授業の充実	・いじめゼロ、早期対応で解決 ・児童アンケートで学校が楽しいと回答90%以上 ・道徳授業公開…1回以上	B	A	学校が楽しい91%。引き続き、安心・安全に努め、道徳や人権の授業などを確実に実施し、心の教育を推進していく。	A	コロナ禍で家庭での生活等も変わってきている。不安を感じている保護者もいるので、適宜協力・相談ができるとよい。	生活・児童支援部の活性化を図り、「やさしい子」をめざして、学校全体で心の育成に取り組む。
特別支援教育の充実	特別支援教育の推進	・校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・校内委員会…年5回以上 ・ケース会議・支援会議の充実	・ユニバーサルデザインの視点を授業にしている教員100%（教員アンケート）	A	A	実施している教員は多くいるが、実施内容には差がある。校内体制として、西小岩のスタンダードを確立し、きちんと位置付けてしていく。	A	エンカレッジルームについて、もっと保護者に知らせていく。多くの児童が活用し、それらが有効であることを知った。	特に支援が必要な児童については、学期に1度は面談を設けたり、学校での様子を知らせたりするなどして、保護者への理解を得られるようにする。
	校内研修の充実	・SCや心理士との連携を図り、個別の支援が必要な児童への対応についての研修の推進	・校内研修…年2回 ・校内ミニ研修…月2回以上	・研修の学びを授業に生かしている教員100%（教員アンケート）	B	B	個別の支援が必要なケースについて研修し、理解を深めた。	B	児童の理解とともに、保護者との連携も引き続き行っていく。	具体的な対応策を明文化していく。
	関係諸機関との連携	・専門家チーム等を招いての特別支援教育の視点に立った学習環境づくりの充実	・校内研修…年2回以上	・特別支援教育の理解を深めた教員100%（教員アンケート	B	B	専門家チーム2回、特別支援学校1回の招へい機会を設定するなど研修の機会を設けた。。	B	関係機関との連携を積極的に進めてほしい。	窓口を一本化し、研修が実施しやすいようにする・
教員の資質向上	教員研修の充実	・学習用タブレットを活用した授業実施に向けた研修	・ICT研修…年3回 ・校内ICT研修…年3回	・ICTの効果的活用について理解を深めた教員90%	A	A	タブレットを活用した授業を全クラスで実施した。情報モラル研修を1回以上実施した。	A	タブレットを使用しての授業を今後も続けていってほしい。	今後も教員同士、授業を見合うなどして授業改善していく。
	校内研究の充実	国語科を軸に思考・判断・表現力を向上させる授業の充実を図り、授業改善意識を高める。	・外部講師を招いての校内研究授業…年6回	・児童アンケートで説明文が分かるようになったと回答70%以上	A	A	6回の研究授業を実施。年度末の全児童対象振り返りアンケートでは、説明文がわかるようになったが82%。	A	国語科の研究を継続してるので、児童の理解が深まっていると思う。	低・中・高・専のブロックごとに深める体制を整える。
	校内OJTの充実	西小岩スタンダードの徹底と主任教諭・学力向上委員会の推進	・企画会の裏でOJT研修年10回 ・西小岩スタンダードの振り返り	・OJTが学びとなった教90% ・学びを授業に生かしている90%	B	B	教員により差がある。校内体制として今後、きちんと位置付けていく。	B	コロナ禍で大変な中でも、しっかり研修をしていると思う。	校務分掌を刷新し、計画的に実施していく。
特色ある教育の展開	小中連携教育の推進	「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	・「NorthWest&Fourth」を基に家庭と連携を図って取り組む。	・家庭学習の取り組み80%以上 ・基本的挨拶ができる80%以上	B	B	家庭学習は78%で目標に近づいている。挨拶は90%と年間通して目標を達成。	B	先生方の努力とともに保護者も協力していけるとよい。	家庭学習定着に向けて、さらに取組を促して
	全校俳句	俳句作りに全校が取り組み、感性を磨く。	・年間4回の俳句作り ・校内俳句コーナーに掲示	・児童アンケートで俳句作りが楽しい、季節を感じるようになったという回答が80%以上	A	A	児童アンケートで、91%の児童が、季節ごとの俳句作りに楽しく取り組んだ。	A	継続して取り組んでほしい。	年間2回以上は確実に取り組み、年度末に表彰も行っていく。
	1年生からの算数習熟度別授業	習熟度別指導による授業の充実	・全単元で実施	・児童アンケートで算数が分かるようになったと回答70%以上	B	B	学習内容の定着が課題。年度末の全児童対象振り返りアンケートで、算数がわかるが68%。	B	全学年で取り組むことで、今後の成果に期待する。	東京ベーシック・ドリルを全校で確実に取り組む。